

たびひきつけ

旅引付と二枚の絵図が伝えるまち——中世日根荘の風景——

ひねのしよう

「日本遺産」に認定されました!!

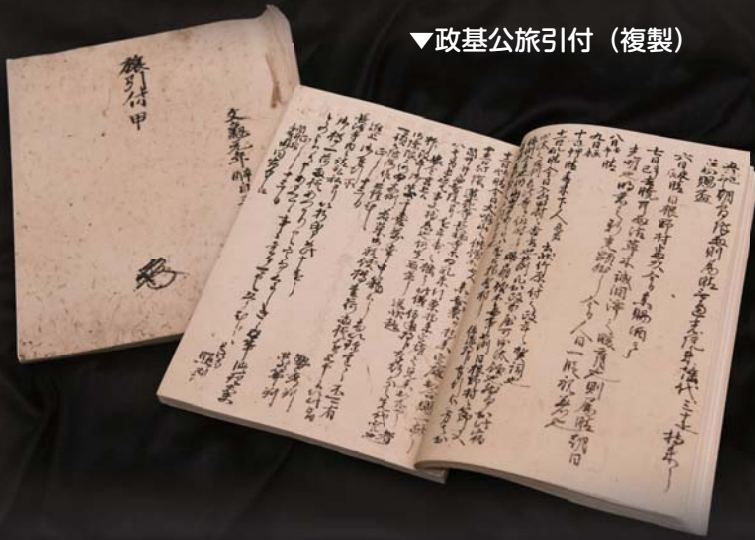
令和元年5月20日(月)、泉佐野市が文化庁に申請していた「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち——中世日根荘の風景——」のストーリーが日本遺産に認定されました。

問合先 文化財保護課



▲和泉国日根荘日根野村絵図 (複製)

▼政基公旅引付 (複製)



※絵図 (2枚) および旅引付 (5冊) の写真は、歴史館いずみさの所蔵の複製を使用 (原本は宮内庁書陵部所蔵)



このたび、泉佐野市が申請した「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち——中世日根荘の風景——」のストーリーが日本遺産に認定されたことは、大変名誉なことであり、嬉しく思います。今回の認定は、中世荘園の風景が世代を超えて生活や暮らしの中で色濃く受け継がれた泉佐野市の歴史遺産が、日本の伝統・文化として高く評価されたことによるもので、申請に向けてご尽力いただいた関係者の方々、市民の皆様にはご支援、ご協力をいただきましたこと、心から感謝申し上げます。引き続き、日本遺産を構成する文化財の活用・発信について全力で取り組んでまいります。

泉佐野市長 千代松 大耕



日本遺産

JAPAN HERITAGE

地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (JapanHeritage)」として文化庁が認定するもので、このたび令和元年度の認定で、泉佐野市のストーリーが認定されました。今回の認定は、単一の市町村内でストーリーが完結する「地域型」としては、大阪府内初となります。

今後、本市では「日本遺産」の認定により、地域の文化財群を総合的に整備・活用して国内外に発信することにより、地域の活性化を図ってまいります。

※詳しくは、文化庁「日本遺産」のホームページをご覧ください。



▲▼5月20日(月)、東京国立博物館で開催された認定証交付式の様子



ストーリー

日本の玄関口、関西国際空港のある泉佐野市には、約800年前、摂政や関白になった上級貴族である五摂家(近衛家・九条家・鷹司家・二条家・一条家)の1つ、九条家の治める「日根荘」とよばれる荘園があり、その範囲は現在の市域すべてに及んでいました。また、16世紀初めに記された九条政基の日記、「政基公旅引付(ひきつけ)」に描かれる世界は、大木地区の荘園時代以来の農村景観として今も息づき、訪れる人を魅了します。現地に生きる人びとの営みが絶えることなく進化し、維持されてきたこの魅力ある懐かしい風景は、どのようにして作られてきたのでしょうか。その答えの1つが、日根野地区を開発するために描かれた鎌倉時代の二枚の絵図に隠されています。

◆二枚の荘園絵図

1234年、日根荘が成立します。経営の一番の難題は、広大な未開地の開発でした。1309年、九条家は日根荘の土地調査に着手しますが、その際に作成された二枚の絵図にはきわめて



克明に村の水路やため池、寺社などが描かれています。それらは驚くほど現存するものと一致します。

開発の主要プロジェクト

井川水路の整備でした。井川は日根神社と慈眼院の間を通り、段丘面に広がる農地を抜けるながら、十二谷池まで続く全長約2.75kmを高度差わずか約3mで流れるように作られました。



農地を潤す井川水路

その緻密で大がかりな土木工事からは、村人たちの血のにじむような努力が伝わってきます。

当時作られたため池も、今なお田畑に恵の水を注ぎ、人々に実りを与えてくれます。大開発によって発展を遂げた日根荘は、九条家の所有する全国約30カ所の荘園の中で自らが開発した重要な荘園へと成長します。では、当時の生活はどのようなものだったのでしょうか。

◆貴族の日記「政基公旅引付」

時は戦国時代。武士によって荘園経営が危うくなり始めたころ、領主である九条政基は、入山田村、当時の大木地区にあった長福寺に1501年から4年間滞在了ました。この4年間の様子や出来事を政基は日記につづっています。



(次頁へつづく)

「梅は花 松はみどりの 春の日の

めぐみぞ 四方に 天満神」

梅が花開き、松が緑を色濃くする春の日の恵が四方のいたるところに満ちているのは、天満天神のおかげです。

滞在中、政基は貴族らしく連歌などを催しましたが、荘園の春色を尊ぶこの歌からは、当時の天神信仰が伺えます。総福寺に天満宮の小さなお社がたたずんでいます。

「風情といい、いう詞といい、都の能者に恥じず」

早ばつに悩まされる大木の村人たちは、滝宮（火走神社）で雨乞いの儀式を行いました。そこで奉納された能は、姿かたちといい、言葉の言い回しといい、都の能に恥じないものだと言葉は称賛しました。火走神社の雨乞いでも雨が降らない時は、犬鳴山七宝瀧寺で神事を行いました。今も神社ではホタキ神事として行われています。



ホタキ（雨乞い）神事

神事として行われています。

古来より修験

道の聖地として七宝瀧寺が鎮座する犬鳴山。山

の名は大蛇から主人の命を守った義犬伝説に由来し、大阪府内では珍しく温泉郷があります。

「舞の手共、当道なほ勝劣あるべからざるものなり」

舞の所作も都の役者と優劣つけがたいほどのものでした。大井関大明神（日根神社）では毎年4月2日に例祭が行われていました。そこで行われた芸能の素晴らしさにも政基は感銘を受けたといえます。

井川をはさんで隣接する慈眼院には日本三名塔のひとつである多宝塔が、750年の間変わ

ることなく優雅に佇んでいます。

政基は慈眼院に滞在することもありました。

今は地域の集

会所になっていく大木の円満寺

では、外からの軍勢の襲来を、早鐘を鳴らし村中に伝えました。



慈眼院 多宝塔

資料をもとに歴史をたどると、荘園に生きた人々の軌跡が見えてきます。また、現存する当時の建造物や遺跡は今もなお、中世の面影を残し、受け継がれています。このように日根荘は、当時の支配や村人の生活、信仰の様相や開発のあり方を具体的に示してくれるとともに、中世の村の姿を追体験できる全国でも希少な荘園の1つです。

◆中世の息吹

中世から芸能に優れていた火走神社や日根神社での伝統的な祭りには、今も多くの人々が集まり、賑わいをみせています。ハイキングコースとして親しまれている土丸・雨山城跡

は、戦乱の跡をかき消すように、木漏れ日がやさしく照らし、訪れる登山者を迎えてくれます。この山頂からは、

海上に浮かぶ国際空港をバックに中世の農村景観が一面に望むこと



土丸・雨山城跡

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさのでは、日根荘の常設展示を行っています。

今回日本遺産の認定を受けた旅引付（5冊）と絵図（2枚）の複製も展示していますので、ぜひご来館ください。

休館日 月曜日、祝日

（祝日が月曜日の場合は月・火曜日が休館）

開館時間 午前9時～午後5時

（入館は午後4時30分まで）

入館料 無料



ができ、その意外性がトレッカー達の人気スポットとなっています。

室町時代、全国で12カ所に減少した九条家荘園の中でも、日根荘は重要でありつづきました。土丸・雨山城跡の頂から望む現在の日根荘。この景色は地域の営みの中で日々変化を続けながらも、荘園の礎がしっかりと守られ続けているのです。それは、この地を創り、受け継いできた人々の息づかいなのだということを、訪れる人びとに語りかけてくれます。

